

皆さんお元気ですか。

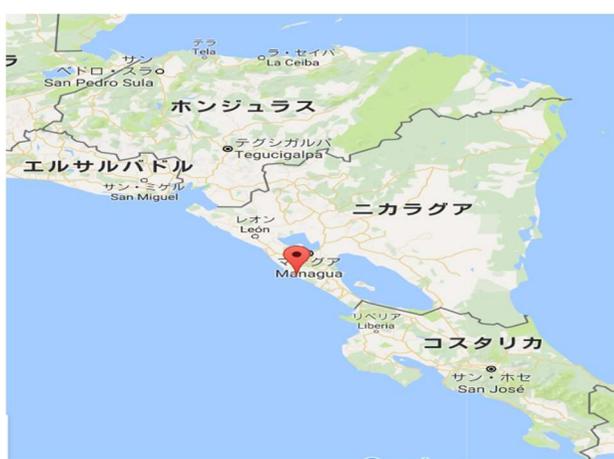
2017年2月の出来事を綴っています。ご覧くださいます。



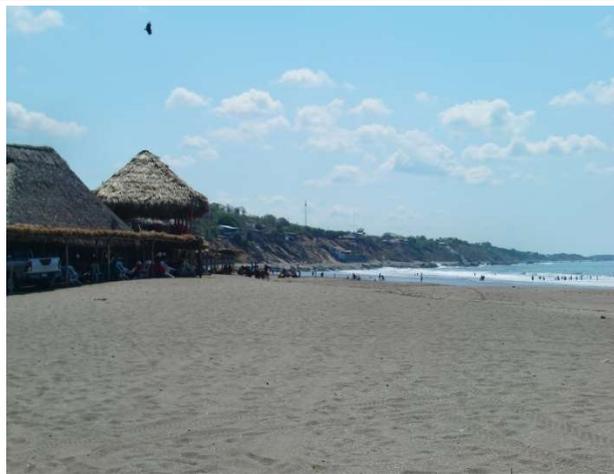
2月21日、7時半ごろニカラグア日本友好公園（道場のある公園）に行った。合気道の生徒が早朝にミリタリートレーニングをやっているクラスがある。彼もそのクラスに参加している、とのことだったので、見学に行った。合気道の生徒はいなかったが、5人ほどがバスケットコードでジョッキング、柔軟体操、縄跳び、腹筋運動などをしていた。インストラクターは音楽の音量を調整しながら、生徒のそばで見ているだけだった。約1時間私は近くのベンチに座りながら、見ていた。ニカラグアに来て、他の武道や体操教室などを見てきたけど、ほとんどのインストラクターはまじめに指導しているようには思えない。よくこれで、プロとして勤まるなあと思う。しかし、生徒も生徒で、集まってくる時間や退去する時間などがばらばらである。やるプログラムが決まっているのかどうかは分からないが、全員が一緒の動きではなく、バラバラである。これで個人の成果や進歩はあるのだろうか。また、生徒はほとんどが女性だった。



同じ公園には、ヨガのグループも利用している。この日は土曜日の午後で、我々も来週の日本文化紹介で合気道演武をするので、練習に来た。このヨガの連中は、30分ほど公園の樹木の下にマットを引いて、ヨガをしていた。インストラクターは、相変わらず口だけ動かしているようだった。その後、ヨガの連中は、あずま風の広間でドラムとその他の鳴り物をもって、アフリカン調の音楽を奏でていた。ほとんどの連中は、ヨガをするのでもなく、ただ音楽に合わせて上半身を動かしているだけだった。この団体も女性がほとんどだった。男性はドラムを叩いているだけだった。実は合気道教室にも女性が3人ほどいる。この3人とも他の男性に比べて、稽古日数も多く、またまじめに取り組んでいる。ニカラグアにある日系企業の日本人も言っていたが、こちらの女性のほうが男性よりまじめでしっかりしていると。本当だなあと最近つくづく思う。



2月26日、合気道の生徒と私の3人で、La Boquita(ラ ボキータ)というビーチに行った。私の住んでいる街から車で1時間半ほど西に行った太平洋側の海水浴場だ。地元の人が週末のバケーションとて、よく利用するところだそう。海岸に到着したのは、10時ごろだった。駐車場に車を止めると、すぐに数人の客引きがよってきた。しかし、合気道の生徒は、既に場所を予約してくれていたのか、あずま屋風の建物内にあるテーブル席に連れて行ってくれた。しばらくするとウェイターがやってきた。食べ物の注文を聞きながら、近くの柱にハンモックを2か所設置してくれた。こちらでは、ハンモックに寝そべりながら、くつろいでいる人々が多かった。一緒に行った生徒の一人は、日焼けするのが嫌だから、海を見にいかない、と言い、ハンモックにかけながら、ずう～とビールを飲んでた。そして、ランチは大皿に載った焼き魚(サメ、300コルドバ=1200円)を食べていた。それ意外は何もしなかった。(下写真)



潮はすっかり引いていて、遠浅だった。しかし、風も強く波もかなり強く、泳ぐにはチョッと困難なように感じた。家族連れの団体(宗教団体と聞いたが)50人くらいは、海では泳がなくて、海に流れ込んでいる川で泳いでいた。川の方の水は汚れているのに、子供たちは楽しそうに水遊びをしていた。砂浜は暑くなっていて、サンダルなしでは歩けない。この海岸で、馬をよく見かけたのだが、最初はなぜ馬がこんな砂浜にいるのか不思議だったが、この砂の暑さ知って、乗馬でないと、砂浜の散歩は無理だと分かった。ニカラグアに来て、初めての海だ。いままで、首都の街中で、貧しそうな人々を見て同情もした。しかし、同じような人がこの海に来て、マリンバの音を楽しみながら、またダンスをしながら毎週末を過ごしていると思うと、この国は決して貧しい国だとは思わなくなった。日本のように年中時間に追われて働いて、短い休暇を高いお金を払って海外のリゾート地に行くことのほうが、異常な国のように思えてきた。

